“乗り継ぎ券で、『みどりっこバス』『あいあいバス』『芥見岩っこバス』『みわっこバス』を乗り継いで少し遠くへどうぞ”

芥見東 南の

みどりっこバス 通信

芥見東・南地区コミュニティバス等運営協議会 広報誌第23号平成28年6月1日発行
発行元：広報部（芥見東公民館内）　　電話 FAX　241－1062

『みどりっこバスヘルパー』さんを募集しています。お問い合わせは下記へ→芥見東公民館内・電話　241-1062迄　楽しくお手伝いしてみましょう。

－みどりっこバス50万人達成を振り返って－

岐阜市企画部交通総合政策審議監兼
交通総合政策課長　青木　保親 さん

先日、「みどりっこバス」のご利用が50万人を達成し、記念式典が盛大に開催されました。本当におめでとうございます。

当日は、運行スタート時から関わられた方と思いで話をすることもでき、本当に感慨深く式典を拝見させていただきました。

私が大洞団地のコミュニティバスに関わり始めたのは平成11年、既に東京の武蔵野で「ムーバス」が大成功をおさめ、地方都市でもコミュニティバスの導入が始まりつつあった時代でした。大洞団地で急激に高齢化が進んでいること、地域内に病院や大型商業施設など日常生活に必要な施設が整っていることなどから、市内で最もコミュニティバスが成功しやすいと考え、この地域で岐阜市にコミュニティバスを導入するための交通社会実験を行いました。

社会実験では市が中心となってルートやダイヤを決定し。朝夕は路面電車の駅までシャトル運行し、昼間帯は周回ルートで運行するという時間毎の運行を行いました。更に、乗る方がいらっしゃる時のみそのバス停を周るという、当時としては最先端のカーナビシステムを利用したデマンド運行システムを構築し、試験運行も行いましたが、結果はそれほど芳しくありませんでした。

この社会実験で市が学んだのは「地域のことは地域で」ということであり、地域の皆さんにコミュニティを育てていただくシステムを作る必要があることでした。

このシステムを作るため研究を重ね、国がコミュニティバスを自治体主導で導入しやすくするような法改正なども検討しながら、平成18年度に市内4地区で試行運行を開始しました。

この運行開始時に芥見東・南が含まれていなかったのは、全市的にコミュニティバスを導入するためには導入の可能性が高い地区ではなく、一般的な地区を選び、市内のどこにでも導入できる仕組みを作りあげたいとの思いからです。

2年間でコミュニティバスのシステムが出来上がり、平成20年から「みどりっこバス」を始めていただきました。その際にまず驚かされたのは、やはり私の予想を超える地域の人材資源の豊富さでした。次々に新しいアイデアが湧き出す、全国にないコミュニティバスが誕生しました。

式典の最後に「次は100万人式典を」との力強い言葉で多田会長が締められましたが、皆さんが元気でこのみどりっこバスを愛し、使っていただければ、数年後にはご乗車100万人を達成できると思っています。

明るい地域は地域で作り上げていく、地域の高齢化・人口減少に果敢に向かっていくコミュニティバスとなれるよう、市も全力で支援してまいります。

－「みどりっこバス」ご乗車50万人を達成！！－

みどりっこバスヘルパー会
会 長　富内 勝 さん

平成20年6月に運行をスタートしました「みどりっこバス」は、8年間を経て5月16日に50万人目のお客様を迎えました。21日にはバロー芥見店において細江岐阜市長さんご出席のもと記念式典を開催しました。ここで、発足当時の状況を顧みたいと思います。

【若い大団地の誕生】

芥見南地区は昭和43年6月より入居が始まり、続いて52年には東地区が完成して合計4,000世帯という岐阜市最大の住宅団地となりました。

地区内には小学校2校、中学校1校が開校し、また新たに幼稚園やスーパー、医院も進出し大変便利な活気あふれる若い住宅団地が誕生しました。

【高齢化した住民】

その後、時代とともに少子高齢化が進み、小学校は統合されました。また団地内は坂道が多いため、食品の買い付けや医者通いなど高齢者にとって大変住みにくい地域となり、住民の足の確保が大きな課題となりました。

【コミュニティバスの運行】

そういう中で平成19年8月に芥見東・南地区コミュニティバス等運営協議会準備会を発足し、翌20年6月から「みどりっこバス」が団地内を走ることとなりました。

1日平均170人超が乗車し、朝は満員立ち席の状態が多く、バスは高齢者の足となり、バス内はサロンとなって乗客の皆さんに喜ばれています。また、地域住民ボランティアの皆さんや藍川東中学校の生徒さんによる「みどりっこヘルパー」活動は特筆すべきことでしょう。

―コミバス先進地域を訪問して―

［金沢市革新懇］
事務局長　松浦忠孝 さん

岐阜市では市民協働による手づくりコミュニティバスが、市街地地域の隅々まで運行されるようになり、高齢者、若年者などの自家用車に頼れない人々の利便性を飛躍的に向上させる施策が実施されているとのことで、高齢化が進行している金沢市で公共交通の拡充を求めている市民組織として参考にしたいと、4 月 20 日御地を訪問させていただきました。

行政当局からお話を聞いた後、先進岐阜市のなかでも最も先進の芥見東地域にてお話をお聞きし、バスに乗車してルートを巡りましたが、御地レベルの活動は、そうどこの地域ででもできることではなく、素晴らしいリーダーとリーダーを支えて尽力奮闘する中核グループの存在、取り組みに積極的に参画される住民のみなさんの存在、加えて行政当局のリードや援護など、それら全てが整ってこそだと、参加者一同、衝撃と深い感銘を受けたのでした。御地の益々のご発展を祈念しています。

―コミバスフオーラム開催―

本年2月19日メディアコスモスにて開催されましたコミバスフォーラムにおいて芥見東・南地区コミュニティバス「みどりっこバス」も参加しパネラーとして多田会長が、これまでの活動状況、今後の取り組みについて説明しディスカッションが行われました。

＜みどりっこバスご利用方法＞

コミュニティバスでは、現金または回数券の他に「ＩＣカード乗車券（アユカ）」「高齢者おでかけバスカード」でご利用いただけます。

■「IC カード乗車券（アユカ）」でお支払できます！

・岐阜バスとの乗り継ぎや、コミュニティバス相互の乗り継ぎ時に４５分以内に乗り継いだ場合、乗り継いだ後のバスで４０円の割引があり、乗り継ぎも便利になります。

※乗り継ぎ時間が４５分を超える場合は、乗り継ぎ割引はありません。

■「高齢者おでかけバスカード」でお支払できます！

・「高齢者おでかけバスカード」でお支払いの際には、運賃が２割引となります。（１００円→８０円）

※「高齢者おでかけバスカード」でお支払いの際には、乗り継ぎ割引はありません。

■障がい者の方は、運賃の半額でご利用いただけます！

・現金でご利用の場合はお支払いの際に、また回数券、ＩＣカード乗車券（アユカ）でご利用の場合はご購入の際に、それぞれ障害者手帳等をお示しいただければ、割引します。

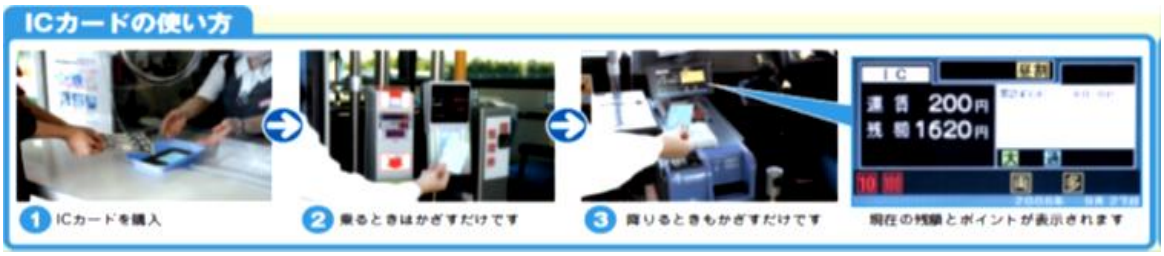
・介護者１名も、割引の対象となります。

■現金・回数券による乗り継ぎ割引について

・現金、回数券によりコミュニティバス相互を乗り継ぐ場合の割引は、「乗り継いだ後のバスで４０円割引」となります。岐阜バスとの乗り継ぎの際は、割引はありません。

・乗り継ぎ券は、乗り継ぎ割引を行う際に、その都度回収します。

■運賃の支払（精算）方法について

・現金、回数券でご利用の場合は、後払いとなります。お降りの際に、運賃、回数券を運賃箱へお入れ下さい。

・ＩＣカード乗車券（アユカ）、高齢者おでかけバスカードでご利用の場合は、乗るときと降りるときに車内にある機械のアユカのデザインの部分にしっかりタッチしてください。